

## 患者とつくる 再生医療探る

新潟で公開講座

「再生医療の『臨床研究』とはどういうことか」をテーマに日本再生医療学会は23日、市民公開講座を新潟市中央区のホテル日航新潟



臨床研究に参加した患者も登壇し、再生医療の意義を強調した市民公開講座は23日、新潟市中央区万代島

子さんが抜け出し、9目半勝ちした。

金子さんは「2局とも負けると思う局面があり、勝てたのは幸運だった。これからも囲碁の勉強を重ね、10連覇を目指したい」と喜びを語った。

別室では、日本棋院の方  
皮宗恵四段つが大盛解説を

で開催した。臨床研究に参加した患者が登壇し、「再生医療がもっと身近な医療になってほしい」と望むなど、新しい医療を患者とともにつくり出す大切さが指摘された。

開催中の学会の第23回総会に合わせて企画され、約200人が参加した。学会理事長の岡野栄之慶応大教授が基調講演し、人工多能性幹細胞（iPS細胞）による神経幹細胞を移植する、脊髄損傷の治療法などを説明した。

臨床研究に参加した患者として、神奈川県藤沢市の志甫信之さん（62）と神戸市の森田周子さん（60）が登壇。二人は軟骨がすり減る変形性膝関節症を患い、軟骨再生医療として細胞シートを移植する手術を受けた。

志甫さんは「自分が治療を受けることで研究に役立てられると分かり、協力させていただいた」と振り返り、森田さんは「いろんな治療を選択できたらすばらしい」と強調。二人とも回復できたことを喜び「この医療に保険が適用されれば、多くの人が利用できる」と願っていた。